



Unify DBIntegrator
インストールと構成

Notice of Proprietary Information and Copyright

Copyright © 1998 by Unify Corporation, Sacramento, California, USA

All right reserved. Printed in the United States of America.

No part of this document may be reproduced, transmitted, transcribed, stored in a retrieval system, or translated into any language or computer language, in any form or by any means, electronic, mechanical, magnetic, optical, chemical, manual or otherwise without the prior written consent of Unify Corporation.

Unify Corporation makes no representations or warranties with respect to the contents of this document and specifically disclaims any implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose. Further, Unify Corporation reserves the right to revise this document and to make changes from time to time in its content without being obligated to notify any person of such revisions or changes.

The Software described in this document is furnished under a Software License Agreement. The Software may be used or copied only in accordance with the terms of license agreement. It is against the law to copy the Software on tape, disk, or any other medium for any purpose other than that described in the license agreement.

The Unify Corporation Technical Publications Department values and appreciate any comments you may have concerning our products or this document. Please address comments to:

Unify DataServer Product Manager
Unify Corporation
3927 Lennane Drive
Sacramento, CA 95834-1922
(800)24-UNIFY
(916)928-6400
FAX (916)928-6406

Trademarks

ACCELL, Unify, and the Unify Logo are registered trademarks of Unify Corporation.

Unify DataServer, VISION, SmartView, RPT and RHLI are trademarks of Unify Corporation.

SQL is trademark of International Business Machines Corp.

The X Window System is a product of the Massachusetts Institute of Technology.

Motif, OSF, and OSF/Motif are trademarks of Open Software Foundation, Inc.

Microsoft, MS, and MS-DOS are registered trademarks and Windows and Windows NT are a trademark of Microsoft.

PostScript is a registered trademark of Adobe Systems, Inc.

Netwise is a registered trademark of Netwise, Inc.

PVCS is a registered trademark of INTERSOLV, Inc.

SimbaExpress is a registered trademark of Simba Technologies Inc.

All other products or services mentioned herein may be registered trademarks, trademarks, or service marks of their respective manufacturers, companies, or organizations.

Part Number: 7818-01

目次

はじめに	1
Unify DBIntegrator パッケージの内容	5
プログラム・メディア	5
ドキュメント	5
システム必要条件	6
Windows NT Server	6
ドライバ必要条件	6
Windows 3.11 版 Unify DBIntegrator Client	7
Windows 95 のしくは Windows NT 版 Unify DBIntegrator Client	7
Unify DataServer NT ODBC ドライバについて	8
Unify DBIntegrator と TCP/IP	8
Unify DBIntegrator インストール手順	9
同時接続ライセンスのアップグレード	11
技術サポート	11
ユニファイジャパン株式会社連絡先	13
第1章 Unify DataServer NT Server への Unify DBIntegrator のインストール	15
Unify DBIntegrator のデフォルト設定	17
Unify DBIntegrator のインストール	20
Unify DataServer NT Server 上のデータ・ソースの構成	26
Unify DataServer NT Server にインストールされるファイル	31
第2章 Unify DBIntegrator Client のインストール	35
Unify DBIntegrator Client のカスタマイズ	38
Unify DBIntegrator Client をインストールする前に	39
Unify DBIntegrator Client インストールの構成	41
ディスクからの Unify DBIntegrator Client のインストール	47
ネットワークからの Unify DBIntegrator Client のインストール	54
クライアントにインストールされるファイル	55

第3章データソースの構成	59
データソースの構成	61
第4章トラブル解決	65
全般的なトラブル解決のチェックリスト	68
Unify DataServer NT Server への Unify DBIntegrator のインストール	70
Unify DBIntegrator Client のインストール	71
付録A: Unify DataServer NT ODBC ドライバ仕様	79
Unify DataServer NT ODBC ドライバのデータ型	81
ODBC API コンフォーマンス	82
SQL 文法のサポート	82

はじめに

はじめに

Unify DBIntegrator によろこそ。Unify DBIntegrator は単体もしくは複数の Unify DataServer NT サーバと ODBC アプリケーション間における、クライアント - サーバ・データ接続を、高速且つ効率的に実現します。Unify DBIntegrator を使用することで、ただ 1 つの ODBC ドライバを介して、自分の全てのデータ・ソースをクライアントに開放することができます。

Unify DBIntegrator は、LAN や WAN の TCP/IP を利用して、クライアント・コンピュータとサーバ間のダイレクト通信を可能にします。また、データ暗号化や HTTP トンネリング (インターネット上でのデータ伝送のセキュリティやファイア・ウォールのサポートを保証) もサポートされています。

管理や保守は全てサーバから行なわれ、あなたがサーバ上でデータ・ソースのセットアップや編集、削除をしたり、他の管理作業を行う間も、エンド・ユーザが作業を中断されることはありません。また、Unify DBIntegrator の柔軟な配布オプションは、社内 LAN ユーザ、分散した WAN ユーザ、あるいはインターネット・ユーザをもサポートする上で最適です。

インストールする Unify DBIntegrator のコンポーネントは 2 つだけです。

- Unify DBIntegrator Server
- エンドユーザ・マシン向け Unify DBIntegrator Client

また、Unify DBIntegrator のインストールは簡単なインストール・プログラムで行います。サーバ・ソフトウェアやドライバも、簡単なセットアップ・プログラムでインストールされます。

Unify DBIntegrator Client をインストールするには、以下のインストール方法のどれかを選んで下さい。

- Unify DBIntegrator Client を、ネットワーク上の、ユーザがインストールするために都合が良い場所へコピーして下さい。デフォルトでは、Unify DBIntegrator Client は対話型インストールに構成されていますが、このオプションはオフにできます。これにより、ユーザはセットアップ・プログラムを動作させ、何も入力しなくとも、Unify DBIntegrator Client をデフォルト設定が、事前に構成された設定でインストールすることができます。

はじめに

- Unify DBIntegrator Client のディスクを配布します。あなたが選んだ構成によって、ユーザはソフトウェアを対話型もしくは非対話型でインストールできます。
- Unify DBIntegrator Client を電子メールに添付し、エンド・ユーザに送ります。
- 必要に応じて、Java アプレットを使用する JDBC 版 Unify DBIntegrator をブラウザにダウンロードして下さい。詳細は、JDBC 版 Unify DBIntegrator によってインストールされた『JDBC 版 Unify DBIntegrator の使用』(Unify DBIntegratorJDBC.html) を参照して下さい。

このマニュアルでは、Windows NT サーバへの Unify DBIntegrator のインストール方法と、エンド・ユーザのマシンへの Unify DBIntegrator Client のインストール方法を説明します。また、Unify DBIntegrator の ODBC ドライバに関する情報も書かれています。何か問題が起きた場合は、「第 4 章：トラブル解決」を参照して下さい。

Unify DBIntegrator パッケージの内容

以下のリストでパッケージの中身をチェックして下さい。

プログラム・メディア

Windows NT Server、および Client プラットフォーム用メディアは、全て Unify DataServer NT の CD にあります。

- **Unify DBIntegrator Server Setup**
CD1(Windows NT)に、Unify DataServer NT ODBC ドライバを含む Unify DBIntegrator のソフトウェアが入っています。
- **Windows3.11 版 Unify DBIntegrator Client Setup**
Windows 3.1/3.11 for Workgroups クライアント・ソフトウェア。
- **Windows 95 および NT 版 Unify DBIntegrator Client Setup**
Windows 95 および Windows NT クライアント・ソフトウェア。
- **JDBC 版 Unify DBIntegrator Client Setup**
JDBC 版 Unify DBIntegrator Client の readme を参照し、インストール作業を行って下さい。

注意

Unify DBIntegrator Client の Windows 3.1/3.11 for Workgroups 版を、Windows NT や Windows 95 のコンピュータにインストールすることができます。但し、これは Windows 3.1/3.11 for Workgroups のデータをアクセスするために設計されたアプリケーションでしか使用できません。

ドキュメント

- 『Unify DBIntegrator のインストールと構成』
- 『Unify DBIntegrator の使用』
- Unify DBIntegrator Help
- Unify DBIntegrator Client Help

はじめに

ヒント インストール・ディレクトリにコピーされた *Readme* ファイルに最新情報が入っています。インストールする前に、Notepad や Write(Windows NT)などのエディタでこのファイルをお読み下さい。

システム必要条件

Windows NT Server

注意 以下の条件は、既に Unify DataServer NT がインストール済みであることを前提にしています。

- CPU = Intel486®もしくは Pentium™、RAM = 32MB (推奨 100MB)
- ハード・ディスク空き容量 = 3.1MB
- CD-ROM ディスク・ドライブ
- Windows NT 4.0
- ネットワーク・アダプタ
- TCP/IP ネットワーク・オプション

ドライバ必要条件

Unify DataServer NT ODBC ドライバ

1. Unify DBIntegrator ODBC ドライバが、Unify DataServer NT バージョン 6.1 以降で動作する構成になっていること。

Windows 3.11 版 Unify DBIntegrator Client

- CPU = 80386 以上、RAM = 4MB。
- ハード・ディスク空き容量 = 約 880KB
- 3.5 インチの HD ディスクが読めるディスク・ドライブ
(オプション ネットワーク上からインストール可能)
- Windows 3.11 もしくは Windows for Workgroups 3.11
- Windows for Workgroups 3.11 用 TCP/IP ネットワーク・オプション
- TCP/IP Winsock1.1 Windows 3.1 と互換性のあるネットワーク・オプション

Windows 95 もしくは Windows NT 版 Unify DBIntegrator Client

- CPU = 80486 もしくは Pentium、RAM = 8MB。
- ハード・ディスク空き容量 = 約 1.8MB
- 3.5 インチの HD ディスクが読めるディスク・ドライブ
(オプション ネットワーク上からインストール可能)
- Windows NT 4.0 もしくは Windows 95
- TCP/IP ネットワーク・オプション

Unify DataServer NT ODBC ドライバについて

Unify DataServer NT ODBC ドライバ (DBIntegrator の一部としてインストールされます) が、あなたの DataServer データベースをアクセスします。

Unify DBIntegrator と TCP/IP

ODBC 用の Unify DBIntegrator Client は、イーサネットあるいはトークン・リングのネットワーク環境において Winsock 互換の TCP/IP 通信プロトコルを使い、サーバ上の Unify DBIntegrator と通信します。また、PPP もしくは SLIP を介したモデム接続もサポートされています。

注意

Windows 3.1 クライアントには、TCP/IP Winsock 1.x 互換のネットワーク・オプションが必要です。

Unify DBIntegrator インストール手順

Unify DBIntegrator のインストールを確実にを行うため、以下の手順にしたがってください。

1. 以前インストールした Unify DBIntegrator が停止しており、サーバー環境が正しくセットアップされていることを確かめて下さい。
2. TCP/IP ネットワーク・オプションが、サーバと全てのクライアントに正しくインストールされていることを確かめて下さい。

クライアント・ワークステーションと Unify DBIntegrator サーバ間のネットワーク通信をチェックして下さい。クライアントでは、デフォルトの「サーバ・リストを使用」オプションは TCP/IP を使用しますが、サーバ・リストが失敗した場合、ブロードキャストが使われます。

Unify DBIntegrator サーバは、相互の通信にブロードキャストを使用します。複数の Unify DBIntegrator サーバがあって、相互に通信させたい場合は、同じネットワーク・セグメント上にあることを確かめて下さい。

注意

全ての Unify DBIntegrator サーバを相互に通信させたい場合、各サーバが使用する Unify DBIntegrator Service のポート番号が全て同じであることを確かめて下さい。デフォルトでは、Unify DBIntegrator Service は登録ポート 1559 を使って通信します。『Unify DBIntegrator の使用』の「第 2 章：Unify DBIntegrator Server の構成」で「ポート番号の変更」を参照して下さい。

3. 自分の DBMS が正しくインストールされていることを確かめて下さい。
DBMS は、Unify DBIntegrator と同じサーバにインストールする必要はありません。Unify DBIntegrator はリモートの DBMS と接続します。
4. サーバに Unify DBIntegrator をインストールして下さい。詳しくは、17 ページの「Unify DataServer NT Server への Unify DBIntegrator のインストール」を参照して下さい。

はじめに

5. (オプション)サーバにシステム・データ・ソースがない場合、DBIntegratorAdmin を使って、少なくとも1つのデータ・ソースをテスト用に構成することをお勧めします。データ・ソースの構成の概要は、26 ページの「Unify DataServer NT Server でのデータ・ソースの構成」を参照して下さい。
6. テストを目的として、単体クライアント上で Unify DBIntegrator Client の構成とインストールを行って下さい。このクライアントが Unify DBIntegrator サーバに接続し、参照可能なあらゆるデータ・ソースを見ることができていることを確かめて下さい。

注意

デフォルトの<全ユーザ>と<全データ・ソース>グループの関連付けを削除すると、クライアントはあなたが指定したデータ・ソースのみを参照します。サーバに何もシステム・データ・ソースがなく、ステップ5であなたが1つを生成すると、このクライアントはそれを参照することが可能になります。データ・ソースの接続や参照が上手くできなければ、『Unify DBIntegrator の使用』の「第5章：トラブル解決」を参照して下さい。

7. (オプション)Unify DBIntegrator Client ディスクを、配布用に構成して下さい。構成オプションの詳細は、41 ページの「Unify DBIntegrator Client インストールの構成」を参照して下さい。
8. Unify DBIntegrator Client をエンド・ユーザに配布して下さい。
9. クライアント・コンピュータの OS に合ったバージョンの Unify DBIntegrator Client をインストールして下さい。

ヒント

Unify DBIntegrator Client の Windows 3.1/3.11 for Workgroups 版を、Windows NT や Windows 95 のコンピュータにインストールすることができます。但し、これは Windows 3.1/3.11 for Workgroups のデータをアクセスするために設計されたアプリケーションでしか使用できません。お使いの ODBC 対応アプリケーションに特化したバージョンの Unify DBIntegrator Client を使用されることをお勧めします。

同時接続ライセンスのアップグレード

同時接続のライセンス数をアップグレードしたい場合、ユニファイジャパン株式会社もしくはライセンスを行ったユニファイ代理店に連絡し、新しいライセンス・キーを入手して下さい。Unify DBIntegrator Control の「アップグレード」ダイアログ・ボックスで新しいライセンス・キーを入力して下さい。

技術サポート

Unify DBIntegrator のインストールがひとまず終わったら、READMR.WRI ファイルで、インストール・メディアに添付されたドキュメント集には書かれていない、製品に関する特定の情報や、この Unify DBIntegrator のリリース全般に関する情報をチェックして下さい。

Unify DBIntegrator をサーバやエンド・ユーザのクライアント機に上手くインストールできない場合は、「第 4 章：トラブル解決」を参照して下さい。

それでも解決しない場合は、後述の「ユニファイ・カスタマ・サポート」に連絡して下さい。ご質問、ご意見、将来的なご要望をお待ちしています。

カスタマ・サポートに連絡する前に、

より良いお手伝いをさせていただくため、当社にご連絡される際には以下の情報をご用意下さい。

- Unify DBIntegrator Server と Unify DBIntegrator Client コンピュータ、両方のプラットフォームと OS バージョン
- 問題を抱えている DBMS の製品名とバージョン

はじめに

- Unify DBIntegrator Server の製品バージョン
- ライセンス・キー。Unify DBIntegratorControl の「ヘルプ」メニューの下にある「Unify DBIntegratorControl について」のダイアログ・ボックスで見ることができます。
- 以下のファイルのコンテンツ

Unify DBIntegrator Server(NT サーバ)

server.ini HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥UnifyDBIntegrator
の下にあるレジストリ・キー

odbc.ini HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ODBC
および (または)
HKEY_CURRENT_USER¥SOFTWARE¥ODBC
の下にあるレジストリ・キー

odbcinst.ini HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ODBC
の下にあるレジストリ・キー

Windows 3.1、Windows for Workgroups 3.11 クライアント

odbc.ini Windows ディレクトリにあるファイル

odbcinst.ini Windows ディレクトリにあるファイル

Windows 95、Windows NT クライアント

odbc.ini HKEY_CURRENT_USER¥SOFTWARE¥ODBC
の下にあるレジストリ・キー

odbcinst.ini HKEY_CURRENT_MACHINE¥SOFTWARE¥ODBC
の下にあるレジストリ・キー

ユニファイジャパン株式会社連絡先

サポート・センター

〒541-0052 大阪市中央区安土町3丁目2-14 (みどり本町河野ビル)
TEL : (06)6266-1590 FAX : (06)6266-1591
Email : ujsup@uj.unify.com

本社

〒110-0008 東京都台東区池之端 1-2-18 (市松ビル)
TEL : (03)5814-3051 FAX : (03)5814-3102
Email : sales@uj.unify.com
ホームページ : <http://www.unify.com/jp>

第 1 章 : Unify DataServer NT Server への Unify DBIntegrator のインストール

Unify DataServer NT Server への Unify DBIntegrator のインストール

Unify DBIntegrator インストールに関する全般的な情報については、「はじめに」をお読み下さい。上手くインストールできない場合は、「トラブル解決」の「Unify DataServer NT Server への Unify DBIntegrator のインストール」を参照下さい。

この節では、Windows NT Server への Unify DBIntegrator のインストール手順を説明します。

Unify DBIntegrator のデフォルト設定

Unify DBIntegrator をインストールし、最初に動作させたときには、Unify DBIntegrator Admin の<全ユーザ>リストは空です。Unify DBIntegrator Client のユーザが最初に自分のデータ・ソースを更新したときに、そのクライアント・ユーザ ID (Windows ログイン ID) と TCP/IP アドレスが<全ユーザ>リストに追加されます。<全ユーザ>リストは、この方法で簡単に埋めておくことができます。

注意

1 つ以上の Windows ログイン ID が確定できない場合、<全ユーザ>リストのユーザ ID は、不明クライアントの TCP/IP アドレスと共に「不明」と表示されます。

Unify DBIntegrator のデータ・ソースを Unify DBIntegrator Admin で構成すると、自動的に<全データ・ソース>と名付けられたベース・データ・グループのメンバーになります。Unify DBIntegrator をインストールするとき、<全ユーザ>グループのユーザは<全データ・ソース>にある全てのデータ・グループを参照します。その結果、全てのユーザが全てのデータ・ソースを参照できます。

注意

データベース・セキュリティは DBMS に属するものです。Unify DBIntegrator では、データ・ソースとユーザのリレーションシップを管理することで、データ・ソースの可視性を提供しますが、セキュリティは提供しません。例えば、ユーザは Unify DBIntegrator Admin を介してデータ・ソースを参照することが許されても、DBMS 固有のセキュリティが課す制限によって、データをアクセスできない場合があります。

デフォルトでは、Unify DBIntegrator は以下の設定によりインストールされます。

- 全システム・データ・ソースが全ユーザから参照可能
- イベント・ログ = 無効
- Unify DBIntegrator Manager のポート番号 = 1583
- Unify DBIntegrator Service のポート番号 = 1599
- Unify DBIntegrator Service のブロードキャスト周期 = 60 秒
- HTTP ポート番号 = 80
- ファイアウォール・アドレス・マッピング = 無効
- ファイアウォール・トンネリング = 有効
- 暗号化 = 無効
- アイドル接続タイムアウト = 360 分
- クエリ接続タイムアウト = 60 分
- ネットワーク・インターフェイス = 全てのローカル・アドレス

これらの設定は、インストール後に Unify DBIntegrator Control を使って変更ができますが、Unify DBIntegrator のセットアップ中やテスト中は、この設定をお使いになることをお勧めします。デフォルト設定の変更については、『Unify DBIntegrator の使用』の「第2章：Unify DBIntegrator Server の構成」を参照して下さい。

Unify DBIntegrator のインストール

注意 NT サーバに、古いバージョンの Unify DBIntegrator をインストールしている場合、新しいバージョンをインストールする前に、「コントロール・パネル」の「プログラムの追加/削除」で古いバージョンをアンインストールして下さい。

注意 Unify DataServer NT サーバに Unify DBIntegrator を正しくインストールするためには、NT サービスをインストールできる管理者特権を取得しなければなりません。

1. Unify DBIntegrator をインストールする前に、「お読みになる前に」の「システム必要条件」をご覧になって、システムの前提条件を全て満たすことを確かめて下さい。
2. 全ての ODBC アプリケーションを閉じ、システム・データ・ソースの生成や Unify DBIntegrator 管理を実行する管理者としてログオンして下さい。
3. Unify DataServer の CD を挿入して下さい。
4. Unify DataServer NT のパッケージの指示書に従って下さい。Unify DataServer NT のライセンス・キーが ODBC 対応なら、インストーラは Unify DBIntegrator に必要なコンポーネントのインストールを要求します。
5. 「ファイル」メニューから「実行」を選択して下さい。次に「コマンド・ライン」ボックスで `x:¥DBIntegrator¥setup` とタイプして下さい。x は DataServer の CD ドライブ名です。「OK」を選んで下さい。

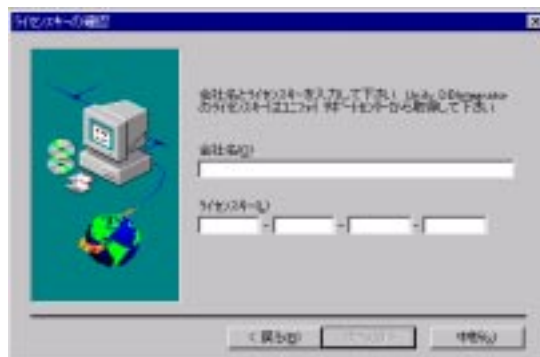
Unify DBIntegrator の「製品ライセンス契約」が現れます。



6. 「製品ライセンス契約」の条件を受諾する「はい」を選択し、インストールを続行して下さい。（「いいえ」を選択すると、セットアップを終了します。）

「ライセンス・キーの確認」のダイアログ・ボックスが現れます。

7. ライセンス・キーを入力して下さい。このライセンス・キーは4個所に書き込まれます。「次へ」を選択して下さい。



8. セットアップ・プログラムが、ライセンス・キーが有効であることをチェックします。有効なら承認画面を表示します。そうでない場合、先に進むためには有効なライセンス・キーを入力しなければなりません。
9. セットアップ・プログラムが、サーバ上で稼動している Unify DBIntegrator のバージョンをチェックします。サーバで Unify DBIntegrator が稼動していることを検出した場合、セットアップを先に進む前に、その Unify DBIntegrator を終了しなければなりません。

Unify DBIntegrator を直ちに止めるには、「はい」を選択して下さい。セットアップ・プログラムは Unify DBIntegrator を自動的に停止して、セットアップを継続します。

ユーザの都合に合わせた時間に Unify DBIntegrator を止めたい場合は、「いいえ」を選択して下さい。セットアップを終了します。Unify DBIntegrator の新しいバージョンをインストールする前に、Unify DBIntegrator を手動で止めなければなりません。

セットアップ・プログラムを継続する場合、続いて画面が現れ、動作中の Windows アプリケーションを閉じてからセットアップを進めることを告げます。

10. 動作中のアプリケーションは必ず閉じるようにお願いします。アプリケーションを閉じた後、この画面に戻って「次へ」を選択して下さい。

注意

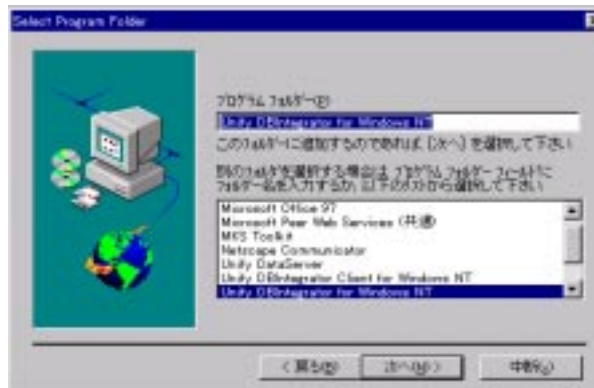
アプリケーションを開いたままセットアップを進めた場合、Windows を再起動しないと Unify DBIntegrator は使えません。

以下のダイアログ・ボックスが現れます。



Unify DataServer NT のインストール先と同じディレクトリに、Unify DBIntegrator をインストールして下さい。Windows がインストールされたドライブの c: ¥ Program Files ¥ Unify ¥ Unify DBIntegrator です。

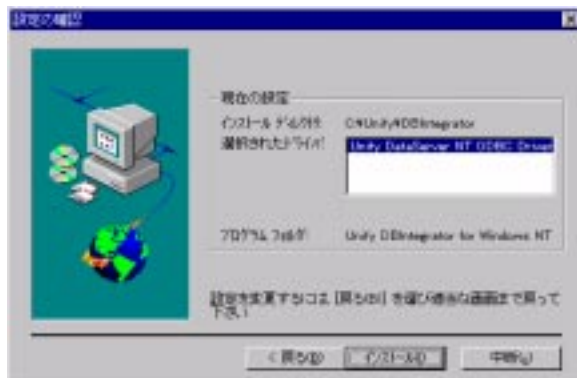
11. 「次へ」を選んで下さい。
以下のダイアログ・ボックスが現れます。



「プログラム・フォルダ」名を変更するには、「プログラム・フォルダ」テキスト・ボックスで新しい名前をタイプするか、ドロップダウン・リストから別のフォルダを選択して下さい。

第1章 Unify DataServer NT Server への Unify DBIntegrator のインストール

- 「次へ」を押して下さい。
以下のダイアログ・ボックスが現れます。



- 選択項目を見直して下さい。何らかの変更を行うには、変更したい設定の入ったダイアログ・ボックスまで「戻る」を選択して下さい。変更を行い、さらにこのダイアログ・ボックスに戻るまで「次へ」を選択して下さい。
- 「インストール」を選択して下さい。

Unify DBIntegrator のプログラム・フォルダが生成されます。Unify DBIntegrator Admin のアイコンと Unify DBIntegrator Control のアイコンが、Readme ファイルやヘルプのアイコンと共にこのフォルダに配置されます。

ヒント

Unify DBIntegrator をアンインストールするには、「コントロール・パネル」の「プログラムの追加 / 削除」オプションを使用して下さい。

以下のダイアログ・ボックスが現れます。



全てのファイルが正しくインストール・ディレクトリにコピーされると、セットアップ・プログラムはシステムの前提条件をチェックし、ユーザにその結果を通知します（例えば、TCP/IP ネットワーク・オプションなど）。

セットアップ・プログラムが必要なシステム・コンポーネントを確認すると、インストールは完了し、Unify DBIntegrator が自動的に起動します。

問題点を告げるメッセージを何か受け取った場合は、「第 4 章：トラブル解決」の「Unify DataServer NT への Unify DBIntegrator のインストール」を参照して下さい。

Unify DBIntegrator をインストールしたときに、何かのアプリケーションを実行している場合には、Unify DBIntegrator を使用する前にコンピュータを再起動しなければならない場合があります。コンピュータを自動再起動するには、「はい」を選択して下さい。後回しにする場合は「いいえ」を選択して下さい。

15. CD ROM ドライブから CD を抜いて下さい。「終了」を選択し、セットアップ・プログラムを終えて下さい。サーバ上で Unify DBIntegrator が自動的に起動します。
16. データ・ソースを構成して下さい。概要は 26 ページの「Unify DataServer NT Server のデータ・ソースの構成」を参照して下さい。データ・ソースの取り扱いの詳細は、『Unify DBIntegrator の使用』の「第 3 章：Unify DBIntegrator の管理」を参照して下さい。

17. クライアント上のデータ・ソースも含め、Unify DBIntegrator Client の構成とインストールを行って下さい。詳細は、「第2章：Unify DBIntegrator Client のインストール」を参照して下さい。

Unify DataServer NT Server 上のデータソースの構成

Unify DBIntegrator をひとまずインストールしたら、Unify DBIntegrator Admin を使って、ユーザがアクセスするデータ・ソースを構成して下さい。

注意 Unify DBIntegrator Client 用にデータ・ソースを構成するには、61 ページの「データ・ソースの構成」を参照して下さい。

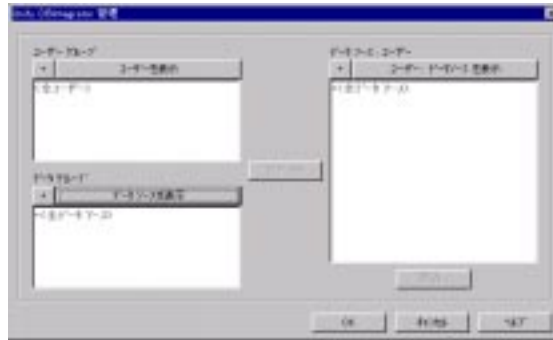
重要 Unify DBIntegrator のデータ・ソースは、システム・データ・ソースとして構成されなければなりません。システム・データ・ソースは NT の下で動作する全てのユーザ・アカウントからアクセスできるデータ・ソースであり、そのデータ・ソースを生成したアカウント以外にはアクセスされないユーザ・データ・ソースとは異なります。

注意 Unify DataServer Server 上で、データ・ソースを *odbc.ini* レジストリに手作業で追加したり、あるいは Unify DBIntegrator インストール以前のシステム・データ・ソースが存在する場合、Unify DBIntegrator Admin を開き、それらのデータ・ソースが加わることについて「OK」を選択しなければなりません。

データ・ソースを構成するには、

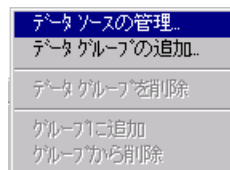
1. 「スタート」メニューから Unify DBIntegrator Admin を開いて下さい。

以下のダイアログ・ボックスが現れます。



Unify DBIntegrator は ODBC Administrator を使って、全てのデータ・ソースの追加、変更、削除を行います。したがって、ODBC Administrator の中からデータ・ソースを追加、変更、削除した場合、その情報は永久保存されます。「キャンセル」ボタンを選択して、Unify DBIntegrator Admin を終了しても関係ありません。

2. この時点で、ダイアログ・ボックスの左下部分のボタンが「データ・ソース」という見出しになっていない場合は、「データ・グループ」リスト・ボックスの一番上の「データ・ソース表示」という見出しのボタンを選択して下さい。見出しが「データ・ソース」に変わります。
3. マウス・カーソルを「データ・ソース」リスト・ボックスのどこかに置いて、マウス右ボタンでショートカット・メニューを開いて下さい。



第1章 Unify DataServer NT Server への Unify DBIntegrator のインストール

4. 「データ・ソースの管理」を選択して下さい。「ODBC データ・ソース・アドミニストレータ」ダイアログ・ボックスが現れます。

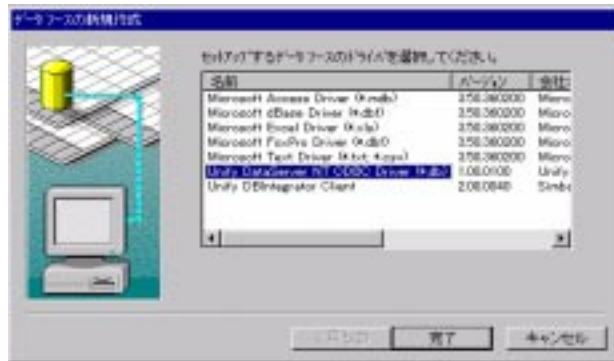


注意

Unify DBIntegrator のデータ・ソースは、システム・データ・ソースとして構成しなければなりません。そうでないと、たとえ、そのためのパーミッションを与えたとしても、ユーザはデータ・ソースをアクセスできません。Unify DBIntegrator のデータ・ソース追加には、「データ・ソース」画面の「追加」ボタンを使わないで下さい。

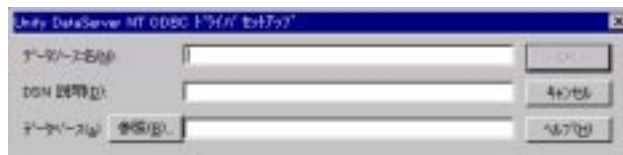
5. 「システム DSN」タブを選択して下さい。
「システム DSN」タブが現れて、その時点におけるシステム・データ・ソースを一覧表示します。
6. 「追加」を選択して下さい。

「データ・ソースの新規作成」ダイアログ・ボックスが現れ、現在インストール済みのドライバを一覧表示します。



7. 「Unify DataServer NT ODBC Driver」を選択して下さい。
「Unify DataServer NT ODBC ドライバ・セットアップ」ダイアログ・ボックスが現れます。
8. ドライバに関するフィールドを下記の情報で埋めて下さい。

Unify DataServer NT Server ODBC Driver



データ・ソース名 自分のデータ・ソース名を入力して下さい。このデータ・ソース名は、クライアントの *odbc.ini* ファイル、Unify DBIntegrator Control のビュー・ウィンドウ「データ・ソース名」カラム、Unify DBIntegrator Admin の「データ・ソース」リストなど色々な所に現れます。データ・ソース名には意味のある名前を選ぶことをお勧めします。

DSN 説明 このフィールドはオプションです。データ・ソースの説明を入れて下さい。この情報はクライアントの *odbc.ini* ファイルに現れますので、説明には意味を持たせた方が良いでしょう。

データベース: このフィールドと「参照...」ボタンを使って、サーバで使える DataServer のデータベース・リストをスクロールして下さい。

9. 「OK」を選択して、入力内容をレジストリの *odbc.ini* 部に書き込み、「ODBC データ・ソース・アドミニストレータ」ダイアログ・ボックスに戻して下さい。
10. 「OK」を選択し、Unify DBIntegrator Admin に戻して下さい。Unify DBIntegrator Admin で「OK」を選択し、今追加したばかりの新しいデータ・ソースを「データ・ソース」リストに表示して下さい。

<全データ・ソース>をアクセスするパーミッションを持つユーザは、全てが自動的に新しいデータ・ソースをアクセスするパーミッションを持ちます。データ・ソースやデータ・グループの取り扱いの詳細は、『Unify DBIntegrator の使用』の「第3章：Unify DBIntegrator の管理」を参照して下さい。

Unify DataServer NT Server にインストールされるファイル

以下のファイルがインストール作業中に、指示されたディレクトリにインストールされます。

注意 <Windows>インストール先ディレクトリは、ユーザの構成によって変わります。

デフォルトの Unify DBIntegrator インストール・ディレクトリは、
c: ¥ Program Files ¥ Unify ¥ DBIntegrator です。

ファイル名	インストール先
Odbcad32.exe	<Windows>ディレクトリ ¥ System
Ccrypto.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Ctl3d32.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Dbnmpntw.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Drvssrvr.hlp	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Sqlsrv32.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Ds16gt.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Ds32gt.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Mfc30.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Msvcrt20.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Odbc16gt.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Odbc32.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ

第1章 Unify DataServer NT Server への Unify DBIntegrator のインストール

ファイル名	インストール先
Odbc32gt.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Odbccp32.cpl	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Odbccp32.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Odbccr32.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Odbcinst.hlp	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Odbcint.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
DBIntegrator.dll	<Windows> ¥ System32 ディレクトリ
Ctlres.dll	Unify DBIntegrator インストール・ディレクトリ
DelsL1.isu	Unify DBIntegrator インストール・ディレクトリ
Expres.dll	Unify DBIntegrator インストール・ディレクトリ
Expres32.dll	Unify DBIntegrator インストール・ディレクトリ
Oemclt.dll	Unify DBIntegrator インストール・ディレクトリ
Oemexpr.dll	Unify DBIntegrator インストール・ディレクトリ
Readme.txt	Unify DBIntegrator インストール・ディレクトリ
Scrypto.dll	Unify DBIntegrator インストール・ディレクトリ
Shttp.dll	Unify DBIntegrator インストール・ディレクトリ
UnifyDBIntegratorAdmin.cnt	Unify DBIntegrator インストール・ディレクトリ
UnifyDBIntegratorAdmin.exe	Unify DBIntegrator インストール・ディレクトリ
UnifyDBIntegratorAdmin.hlp	Unify DBIntegrator インストール・ディレクトリ

ファイル名	インストール先
UnifyDBIntegratorControl.cnt	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ
UnifyDBIntegratorControl.exe	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ
UnifyDBIntegratorControl.hlp	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ
UnifyDBIntegratorManager.exe	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ
UnifyDBIntegratorManagerMsg.dll	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ
UnifyDBIntegratorManager.mdp	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ
UnifyDBIntegratorServices.exe	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ
UnifyDBIntegratorServicesMsg.dll	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ
Unify Corporation.cer	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ
Srcclts	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ
Usrgrps	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ
Usrs	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ
Usrsrcs	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ
Grps	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ
Clts	Unify DBIntegrator インストール ディレクトリ

第 2 章 : Unify DBIntegrator Client の インストール

Unify DBIntegrator Client のインストール

Unify DBIntegrator Client のインストールには 2 つの方法があります。管理者やユーザに都合の良い方を選んで下さい。

- ディスクから

ユーザ自身が Unify DBIntegrator Client のセットアップを自分のコンピュータにインストールすることも、システム管理者が代わりにインストールすることもできます。Unify DBIntegrator Client セットアップ・ディスクのコピーを作ってユーザに配布するか、同じセットアップ・ディスクを使用してインストール作業を行って下さい。

詳細は、47 ページの「ディスクからの Unify DBIntegrator Client のインストール」を参照して下さい。

- ネットワークから

Unify DBIntegrator Client セットアップ・プログラムを、エンドユーザがアクセス可能なネットワーク上のディレクトリにコピーすることができます。ディスクを複製したり、管理する手間を省きたい場合はこちらを選んで下さい。これにより、ユーザは 54 ページの「ネットワークからの Unify DBIntegrator Client のインストール」で説明された手順を実行することができます。

必要に応じて、Java アプレットを使用する JDBC 版 Unify DBIntegrator をブラウザにダウンロードして下さい。詳細は、JDBC 版 Unify DBIntegrator によってインストールされる『JDBC 版 Unify DBIntegrator の使用』(*Unify DBIntegratorJDBC.html*) を参照して下さい。

注意

エンドユーザに配布する前に、Unify DBIntegrator Client のインストール・ディスクをカスタマイズすることができます。カスタマイズできる機能として、非対話型インストールの指定、DSN 更新のために通信する Unify DBIntegrator Server の追加、Unify DBIntegrator Manager ポート番号の変更、Unify DBIntegrator Client の DSN 更新間隔の変更、Windows 95 もしくは NT のクライアントに対し、データ・ソースがシステム・データ・ソースであってユーザ・データ・ソースではないと指定、があります。詳細は、41 ページの「Unify DBIntegrator Client インストールの構成」を参照して下さい。

Unify DBIntegrator Client のカスタマイズ

Unify DBIntegrator Client は、クライアントの構成を何も行わなくともインストールできます。また、エンドユーザに配布する前に、Unify DBIntegrator Client インストール・プログラムをカスタマイズすることもできます。デフォルトでは、Unify DBIntegrator Client のインストールは対話型です。つまり、ネットワーク経由であれ、ディスクからであれ、ユーザは自分のマシンに自分でソフトウェアをインストールし、構成します。インストールを非対話型にカスタマイズすることもできます。これにより、ユーザはただセットアップ・プログラムを動作させるだけでよく、インストール中にそれ以上の入力を要求されることがなくなります。

また、ソフトウェアのインストール後にエンドユーザの手をわずらわさないために、Unify DBIntegrator Client のデフォルト設定を事前にカスタマイズすることができます。これにより、ソフトウェアをインストール後、エンドユーザが中断されることはありません。インストール・ディレクトリ、Unify DBIntegrator Server リスト、Unify DBIntegrator Manager のポート番号、DSN 更新間隔などのデフォルト値を変更することができます。

Unify DBIntegrator Client カスタマイズの詳細は、41 ページの「Unify DBIntegrator Client インストールの構成」を参照して下さい。

Unify DBIntegrator Client をインストールする前に

Unify DBIntegrator Client のディスクをユーザに配布する前に、以下のシステム必要条件が満たされているか、チェックすることをお勧めします。インストールに何か問題がある場合は、「第 4 章：トラブル解決」を参照して下さい。

注意

以下にお勧めする手順を踏んでおかないと、クライアントやサーバがデータ・アクセスを行う準備ができていない場合もあります。以下のチェックリストはエンドユーザ側の手間を最小にするためのご提案です。

推奨サーバ構成

- ✓ Unify DBIntegrator が少なくとも 1 台のサーバにインストールされ、稼動していなければなりません。
- ✓ TCP/IP ネットワーク・オプションがインストールされ、稼動していなければなりません。
- ✓ インストール後に Unify DBIntegrator Client でテストするため、少なくとも 1 つのデータ・ソースを、Unify DBIntegrator Admin で構成して下さい。「Unify DataServer NT Server への Unify DBIntegrator のインストール」で「Unify DataServer NT Server 上のデータソースの構成」を参照して下さい。
- ✓ サーバ上のアプリケーションは、構成されたシステム・データ・ソースを使って DBMS に接続できます。
- ✓ ユーザ・グループとデータ・グループを生成して下さい。詳細は、『Unify DBIntegrator の使用』の「第 3 章 : Unify DBIntegrator の管理」を参照して下さい。
- ✓ デフォルト設定を変更する場合は、ユーザまたはユーザ・グループからのデータ・ソースの参照性を変更して下さい。デフォルトでは、全てのデータ・ソースが全てのユーザから参照可能です。詳細は、『Unify DBIntegrator の使用』の「第 3 章 : Unify DBIntegrator の管理」を参照して下さい。

推奨クライアント構成

- ✓ TCP/IP ネットワーク・オプションがインストールされ、稼動していなければなりません。
- ✓ デフォルト設定が自分のネットワーク環境に適しているかどうかを確かめて下さい。詳細は、41 ページの「Unify DBIntegrator Client インストールの構成」を参照して下さい。
- ✓ クライアントはネットワークを介して、サーバと通信できます。

Unify DBIntegrator Client インストールの構成

サーバに Unify DBIntegrator をインストールした後、あるコンピュータに Unify DBIntegrator Client をインストールし、デフォルト設定が自分の環境に適しているかどうか、確認することをお勧めします。Unify DBIntegrator Client のデフォルト設定を変更する場合には、ユーザが Unify DBIntegrator Client をユーザのコンピュータにインストール前に、マスター・ディスク上の設定を変更します。

デフォルトでは、Unify DBIntegrator Client は、以下のネットワーク設定でインストールされます。

図 1 : デフォルトの *custom.ini* ファイル



ユーザ配布前に Unify DBIntegrator Client を構成するには、

1. Unify DBIntegrator Client セットアップ・ディスク 1 をフロッピー・ドライブに挿入して下さい。

第 2 章 Unify DBIntegrator Client のインストール

2. *custom.ini* ファイルを探して下さい。
3. Notepad などのテキスト・エディタでファイルを開いて下さい。
または、
DOS プロンプトで、`edit a:¥custom.ini` とタイプして下さい。
4. 以下の設定を適切なものに変更して下さい。

Interactive=1

非対話型インストールを指定するには、この値を 0 に変更して下さい。これで、ユーザが（ネットワークやディスクから）*setup.exe* を実行しても、ユーザ入力が必要されなくなります。

重要

非対話型のインストール中、*silent.log* と呼ばれるファイルがクライアントのインストール・ディレクトリに作成されます。このファイルはインストール中に発生したあらゆるエラーを詳述します。インストールが成功した場合、*silent.log* に「Unify DBIntegrator Client のインストールに成功しました。」という情報が入ります。インストールに何らかのエラーがあった場合は、*silent.log* にそのエラーが書き込まれます。このファイルを参照するか、ユーザにコピーを送ってもらい、インストールが成功したかどうか、確認して下さい。

Default Directory=Unify DBIntegrator ¥ Client16(もしくは ¥ Client32)

Unify DBIntegrator Client のデフォルトのインストール・パスを変更するには、このファイルのデフォルト・ディレクトリ設定を編集して下さい。Unify DBIntegrator Client ソフトウェアをインストールするクライアント・マシン上のパスとディレクトリを新たに指定して下さい。

SvcPort=1599

Unify DBIntegrator Client はデータ・ソースに対するリクエストをブロードキャストするときに、このポート番号で全サーバにリクエストを送ります。この番号は、クライアントがデータ・ソース情報を受け取るサーバの Unify DBIntegrator サービス・ポート番号と一致していなければなりません。

重要

この番号は極力変更しないようお願いします。

SvcEnableBroadcasting=1

Unify DBIntegrator Client は、以下の 2 つの方法で Unify DBIntegrator Server の新しいデータ・ソースを取得できます。

- Unify DBIntegrator Server リストのうち、最初の利用可能なサーバと通信します。このリストはインストール終了時、およびデータソースを手動で更新する度にコンパイルされます。データ・ソースの自動更新を行うようになっている場合には、クライアントがデータ・ソースに接続する度毎にも、リストはコンパイルされます。

最初のサーバが使用できない場合、Unify DBIntegrator Client はリストの次の Unify DBIntegrator Server と通信を試み、接続が成功するまでそれを続けます。リストのどのサーバも使用できず、且つブロードキャストが可能な場合、Unify DBIntegrator Client は全てのサーバにブロードキャストします (SvcEnableBroadcasting=1)。

- 指定された Unify DBIntegrator Server と通信し、そのサーバが通信可能な全ての Unify DBIntegrator Server の情報を受け取ります。

デフォルトでは、Unify DBIntegrator Client はサーバ・リストを使用するように設定されていますが、クライアント・コンピュータのメッセージを、特定の Unify DBIntegrator Server に送りたい場合があるかも知れません。

データ・ソースのリクエストを特定のサーバに送るには、この値を 0 に変え、リクエストを送りたい Unify DBIntegrator Server の TCP/IP アドレスか、(クライアントの *hosts* ファイルで指定された) ホスト名を、**SvcServer=** 行 (後述) で指定して下さい。

第 4 章 Unify DBIntegrator Client のインストール

例えば、41 ページのサンプル・ファイル「デフォルトの custom.ini ファイル」の `SvcServer=` 行に、TCP/IP アドレス `128.1.0.61` を追加すると、データ・ソースのリクエストはこのアドレスの Unify DBIntegrator Server に送られます。

SvcServer=

ブロードキャストを(前述のように)無効にした場合、どの Unify DBIntegrator Server に、Unify DBIntegrator Client のデータ・ソース・リクエストを送るかを示しています。

ヒント

マルチホーム・ホストの(即ち 2 つ以上のネットワーク・インターフェイスを持つ) Unify DBIntegrator Server に接続している場合、クライアントを接続したいネットワーク・インターフェイスの IP アドレスを指定して下さい。これは Unify DBIntegrator Control で行えます。

この行で、リクエストを送りたい Unify DBIntegrator Server の TCP/IP アドレスか、(クライアントの `hosts` ファイルで指定された) ホスト名を指定して下さい。

例えば、41 ページのサンプル・ファイル「デフォルトの custom.ini ファイル」の `SvcServer=` 行に、TCP/IP アドレス `128.1.0.61` を追加すると、データ・ソースのリクエストはこのアドレスの Unify DBIntegrator Server に送られます。

SvcClntTimeout=10

Unify DBIntegrator Client がエラーを表示する前に、ブロードキャスト・メッセージ(もしくはサーバへ直接送るメッセージ)に対するサーバの応答を何秒待つかを示しています。1 から 999 までの任意の値を入力できます。

SvcSystemDSN=0

デフォルトでは、Unify DBIntegrator Client はユーザ・アカウントの下で動作します。つまり、Windows 95 や Windows NT クライアントのデータ・ソース情報は、ユーザ・アカウントの下に登録され、そのユーザしかアクセスできません。マシンにログオンして、データ・ソースを更新したユーザは、データ・ソース情報を参照できます。

しかし、Unify DBIntegrator Client や Unify DBIntegrator Server を、Information Server(web サーバ・ソフトウェア)のようなりモート・データベースをアクセスするシステム・アカウントの下で動作するアプリケーションと同時に使用する場合もあるかも知れません。この場合、ソフトウェアはシステム・アカウントのデータ・ソース情報しか見ません。このデフォルト設定は変更可能で、データ・ソース情報をシステム・アカウントの下に蓄積し、自分の web サーバ・アプリケーションに利用させることができます。この変更を行うには、SvcSystemDSN=0 の値を 1 にして下さい。

SvcDirect=0

この設定はクライアントに対し、特定のサーバと通信して、データ・ソースを更新するように通知します。目標のサーバは SvcServer の記述内容で指定されます。

特定のサーバを使用してデータ・ソースを更新する場合は、この記述内容を “ 1 ” にして下さい。サーバ・リストを使用する場合は、デフォルトの “ 0 ” のままにしておいて下さい。詳細は、44 ページの「SvcServer=」を参照して下さい。

UpdateAlways=1

接続する毎に、データ・ソースのリストをリフレッシュしたい場合は、“ 1 ” を設定して下さい。“ 0 ” に設定された場合、クライアントは UpdateEveryXHourSec で定義された間隔でしか更新しません。

SvcSrvPort=1583

Unify DBIntegrator Client ディスクにおける Unify DBIntegrator Manager のポート設定は、クライアントがデータ・ソース情報を受け取るサーバの Unify DBIntegrator Manager のポート番号と一致しなければなりません。

この番号を変更するには、空いているポート番号から、そのクライアントがデータ・ソース情報を受け取りたい Unify DBIntegrator Server に一致する番号を入力して下さい。

注意

この番号は極力変更しないようにお願いします。Unify DBIntegrator Manager 独占使用の番号として、Information Sciences Institute に登録されています。

UpdateEveryXHourSec=3600

この設定でデータ・ソースの更新頻度がコントロールされます。これを変更して、更新間隔を秒単位で設定して下さい。

ClientHTTPPorts=80

クライアントが接続しようとするポートが、ここで設定されたポートのどれかと一致すると、ファイアウォール・トンネリングが可能になります。通常はファイアウォールの HTTP ポートはポート 80 です。追加ポートがある場合や、ポート 80 がファイアウォールの HTTP ポートでない場合は、この設定を変更しなければなりません。

ClientInitPro=chttp.dll

この設定によって初期プロトコルがロードされます。このリストを変えて、立ち上げ時にどのプロトコルを可能にするかを定めて下さい。デフォルトでは、ファイアウォール・トンネリングが可能になっています。

ServerList=

SvcDirect が “ 0 ” になっている場合、Unify DBIntegrator Client は、インストール終了時や手動で更新される度にコンパイルされるサーバ・リストからデータ・ソースを取得します。

詳細は、43 ページの “ SvcEnableBroadcasting=1 ” を参照して下さい。

EnableAutoUpdate=1

EnableAutoUpdate 設定はサーバ・リストの更新方法を決定します。デフォルトでは、更新は自動で実行されます。このフラグを “ 0 ” に設定すると、ユーザの手動更新になります。

KeepAlivePeriod=30

ファイアウォールを介した TCP/IP 接続を維持するため、Unify DBIntegrator Client は、周期的に無意味なパケットをサーバに送ります。この周期は KeepAlivePeriod 設定で、秒単位で定義されます。

5. 自分が行った変更をセーブし、*custom.ini* ファイルを閉じて下さい。

これで、あなたが与えた新しいデフォルト設定の下、Unify DBIntegrator Client がインストールされました。

ヒント

Unify DBIntegrator Client がインストールされた後で、これらの設定を変更するための詳細は、『Unify DBIntegrator の使用』の「第 4 章：Unify DBIntegrator Client の使用」を参照して下さい。

ディスクからの Unify DBIntegrator Client のインストール

注意

Unify DBIntegrator Client の Windows 3.1/3.11 for Workgroups 版を、Windows NT や Windows 95 のコンピュータにインストールすることができます。但し、これは Windows 3.1/3.11 for Workgroups のデータをアクセスするために設計されたアプリケーションでしか使用できません。

ディスクから Unify DBIntegrator Client をインストールするには、以下の手順を実行して下さい。

1. (オプション)Unify DBIntegrator Client ディスクの配布に先立ち、自分が行ったデフォルト設定の変更を確かめて下さい。詳細は、41 ページの「Unify DBIntegrator Client インストールの構成」を参照して下さい。
2. ODBC アプリケーションを全て閉じて下さい。

ヒント

Microsoft Office のツールバーを表示させている場合、開いている ODBC アプリケーションがあります。閉じてからインストールを進めることをお勧めします。

3. 自分の OS に合った Unify DBIntegrator Client セットアップ・ディスクを、フロッピー・ドライブに挿入して下さい。
4. セットアップ・プログラムを動作させて下さい。

Windows 3.1、Windows for Workgroups 3.11、Windows NT 3.51

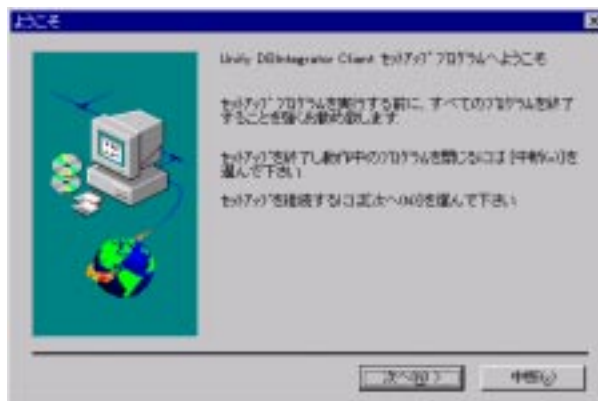
「ファイル」メニューから「実行」を選んで下さい。

Windows 95、Windows NT 4.0

ツールバーの「スタート」ボタンを選択し、「実行」を選択して下さい。

5. コマンドライン・ボックスで **a: ¥ setup** とタイプして下さい。なお、a ドライブを使っていないなら、適当なドライブ名に置き換えて下さい。「OK」を選択して下さい。

以下のダイアログ・ボックスが現れます。



6. ここで必ず、アクティブなアプリケーションを全て閉じて下さい。その後「次へ」を選択し、セットアップ・プログラムを進めて下さい。

以下のダイアログ・ボックスが現れます。

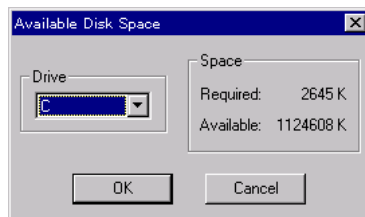


Windows 3.1、Windows for Workgroups 3.11 上でクライアントをインストールしている場合、インストール・ディレクトリは UnifyDBIntegrator ¥ Client16 に事前設定されています。

Windows NT、Windows 95 上でクライアントをインストールしている場合、事前設定されたインストール・ディレクトリは UnifyDBIntegrator ¥ Client32 です。また、ダイアログ・ボックスは、必要な領域および事前設定されたインストール・ドライブ上の利用可能な領域を表示します。

インストール・ディレクトリを変更しないなら、ステップ 12 までスキップして下さい。

7. デフォルトのインストール・ドライブは、Windows がインストールされているドライブです。インストール・ドライブを変更したい場合は、「ディスク容量」を選択し、別のドライブの領域を見て下さい。



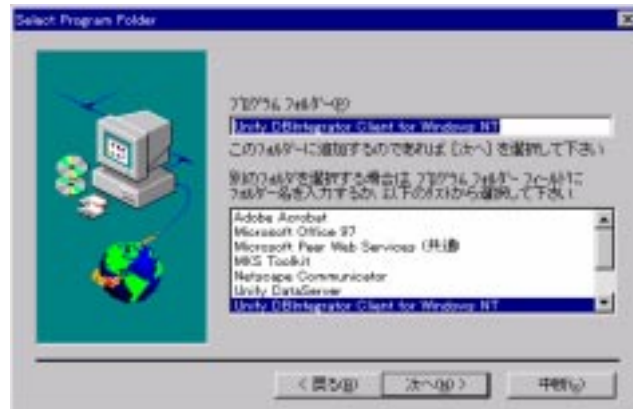
第 4 章 Unify DBIntegrator Client のインストール

8. 使用可能なドライブのドロップダウン・リストから、新しいドライブを選択し、利用可能なディスク領域をチェックして下さい。適当なインストール・ドライブを選択したら、「OK」を選択して下さい。
9. インストール・ディレクトリを変更するために、「参照」を選択して下さい。以下のダイアログ・ボックスが現れます。



10. 「パス」のテキストボックスで、Unify DBIntegrator Client をインストールしたいドライブとディレクトリをタイプして下さい。どんなパス名でも構いません。
または、
「ディレクトリ」のリストからディレクトリを、「ドライブ」のドロップダウン・リストからドライブを選択して下さい。
11. 「OK」を選択して下さい。「インストール・ディレクトリの選択」のダイアログ・ボックスに新しいパスが表示されます。
12. 「次へ」を選択して下さい。

以下のダイアログ・ボックスが現れます。



「プログラム・フォルダー」名を変更するには、「プログラム・フォルダー」のテキストボックスで新しい名前をタイプするか、ドロップダウン・リストから別のフォルダを選択して下さい。

13. 「次へ」を選択して下さい。

以下のダイアログ・ボックスが現れます。



第 4 章 Unify DBIntegrator Client のインストール

14. 自分が行った選択を見直して下さい。何らかの変更を行うには、変更したい設定を行なうダイアログ・ボックスへ戻るまで「戻る」を選択して下さい。変更を行なった後、このダイアログ・ボックスへ戻るまで「次へ」を選択して下さい。
15. 「インストール」を選択して下さい。画面に進捗メータとダイアログ・ボックスが現れ、インストールの進捗状況を知らせます。

すべてのファイルがインストール・ディレクトリにコピーされると、セットアップ・プログラムは、以下のシステム前提条件をチェックします。

- TCP/IP
- Unify DBIntegrator が少なくとも 1 台のサーバにインストールされ、稼働している。
- Unify DBIntegrator のデータ・ソースが、サーバ上で構成されている。

セットアップ・プログラムは Unify DBIntegrator に接続を試みます。接続できない場合、インストールは完了しますが、データ・ソースは更新されません。

セットアップ・プログラムがすべてのシステム必要条件の確定に成功すると、インストールが完了します。これで Unify DBIntegrator Client が使えるようになりました！

以下のダイアログ・ボックスが現れます。



注意 問題を告げるメッセージを何か受け取った場合は、このマニュアルの巻末 70 ページ「第 4 章：トラブル解決」で「Unify DataServer NT Server への Unify DBIntegrator のインストール」を調べて下さい。

16. 「終了」を選択して、セットアップ・プログラムを終えて下さい。

Windows 3.1/3.11 for Workgroups

Unify DBIntegrator Client のプログラム・フォルダはデスクトップに生成されます。中には「Update DataSources」アイコン、「General Unify DBIntegrator Client Help」アイコン、アンインストール・ユーティリティが入っています。

Windows 95、Windows NT 4.0

Windows 95 および Windows NT 版 Unify DBIntegrator Client のプログラム・フォルダには、Unify DBIntegrator Client のヘルプが入っており、「データソース更新」アイコンは「スタート」メニューの「プログラム」の下に生成されません。

ヒント Windows 95 および Windows NT 4.0 で Unify DBIntegrator Client をアンインストールするには、「プログラムの追加 / 削除」ユーティリティを使って下さい。これは「コントロール・パネル」から使用できます。

17. Unify DBIntegrator Client をインストールした際に、何かアプリケーションを実行していた場合は、Unify DBIntegrator Client を使用する前にコンピュータを再起動する必要があります。コンピュータを自動再起動するには、「はい」を選択して下さい。後回しにする場合は、「いいえ」を選択して下さい。

Unify DBIntegrator Client 取り扱いの詳細は、『Unify DBIntegrator の使用』の「第 4 章：Unify DBIntegrator Client の使用」を参照して下さい。

ネットワークからの Unify DBIntegrator Client のインストール

Unify DBIntegrator Client をネットワークからインストールするには、以下の手順を実行して下さい。

1. (オプション)Unify DBIntegrator Client ディスクの配布に先立ち、自分が行ったデフォルト設定の変更を確かめて下さい。詳細は、41 ページの「Unify DBIntegrator Client インストールの構成」を参照して下さい。
2. 適切な Unify DBIntegrator Client セットアップ・ディスクの内容を、特定のネットワーク・ディレクトリにコピーして下さい。

重要

Windows 3.1/3.11 for Workgroups 3.11 と Windows 95/NT のソフトウェアが、同じコンピュータにインストールされる場合は、ディレクトリを別々にしなければなりません。例えば、<x>:¥DBIntegrator¥Client16 と、<x>:¥DBIntegrator¥Client32 とに分けます。

3. ユーザに対し、Unify DBIntegrator Client をインストールする前には、自分のコンピュータの ODBC アプリケーションを全て閉じるように伝えて下さい。

ヒント

ユーザに Microsoft Office のツールバーが表示されていないかチェックするように伝えて下さい。終了してからインストールを進めることをお勧めします。

4. ユーザにセットアップ・プログラムの操作方法を説明して下さい。

Windows 3.1/3.11 for Workgroups

「ファイル」メニューから「実行」を選択して下さい。

Windows 95、Windows NT 4.0

ツールバーの「スタート」ボタンを選択し、「実行」を選択して下さい。

5. コマンドライン・ボックスで[drive]:¥[path]setup とタイプして下さい。
ドライブ名とディレクトリ・パスは適切なものに置き換えて下さい。「OK」を選択して下さい。

インストールは、ディスクからのインストールと同じ方法で進行します。

クライアントにインストールされるファイル

Windows 3.1、Windows for Workgroups 3.11

セットアップ・プログラムは、以下のファイルをクライアント・コンピュータにインストールします。

注意

デフォルトの Unify DBIntegrator Client インストール・ディレクトリは、Unify DBIntegrator Client¥Client16 です。

ファイル名	インストール先
Odbcadm.exe	<Windows>ディレクトリ
Chhttp.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
CIntres.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Cpn16ut.dll	<Windows>ディレクトリ
Ctl3dv2.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Odbc.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Odbc16ut.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Odbc32.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Odbccp32.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Odbccurs.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Odbcinst.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ

ファイル名	インストール先
Odbcinst.hlp	<Windows>¥ System ディレクトリ
Oemclnt.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Udbclt.cfg	<Windows>¥ System ディレクトリ
Udbclt16.dll	<Windows>¥ System ディレクトリ
Udbclt16.hlp	<Windows>¥ System ディレクトリ
DelsL1.isu	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Oemscucr.dll	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Scucres.dll	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Udbutl16.exe	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Udbref16.exe	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Udbref16.hlp	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ

Windows 95 および Windows NT

Windows 95 クライアントでは、ファイルは<Windows>¥ System ディレクトリにコピーされます（下表参照）。Windows NT クライアントでは、同じファイルが<Windows>¥ System32 ディレクトリにコピーされます。

注意

Windows NT クライアントに Windows 3.11 版 Unify DBIntegrator Client をインストールすると、幾つかのファイルは<Windows>¥ System32 でなく、<Windows>¥ System にコピーされます。


ファイル名	インストール先
Ctl3d32.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Ccrypto.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Chttp.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
CIntres.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Ds16gt.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Ds32gt.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Mfc30.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Msvcrt20.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbcad32.exe	<Windows> ディレクトリ
Odbc16gt.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbc32.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbc32gt.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbccl32.cpl	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbccp32.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbccr32.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbcinst.hlp	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Odbcint.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Oemclnt.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ

ファイル名	インストール先
Udbclt32.cfg	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Udbclt32.cnt	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Udbclt32.dll	<Windows> ¥ System ディレクトリ
Udbclt32.hlp	<Windows> ¥ System ディレクトリ
DeisL1.isu	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Oemscucr.dll	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Scucres.dll	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Udbutl32.exe	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Udbref32.exe	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Udbutl32.cnt	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ
Udbutl32.hlp	Unify DBIntegrator Client インストール ディレクトリ

第3章：データ・ソースの構成

データ・ソースの構成

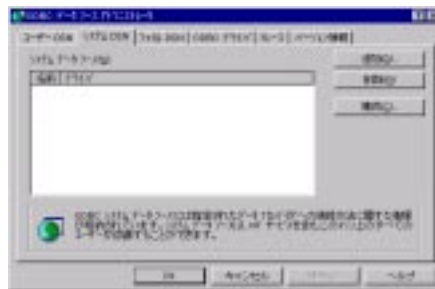
Unify DataServer NT ODBC ドライバ用にデータ・ソースを構成するには、

ODBC Administrator  を使って下さい。この章では、これらのドライバ用にデータ・ソースを構成するために必要な情報の概要を述べます。

注意 ODBC データ・ソースやドライバを保守する ODBC Administrator は、「コントロール・パネル」にあります。

データ・ソースの構成

1. クライアント機で、「コントロール・パネル」の ODBC アイコンをダブルクリックし、「データ・ソース」のダイアログ・ボックスを開いて下さい。以下の画面が現れます。

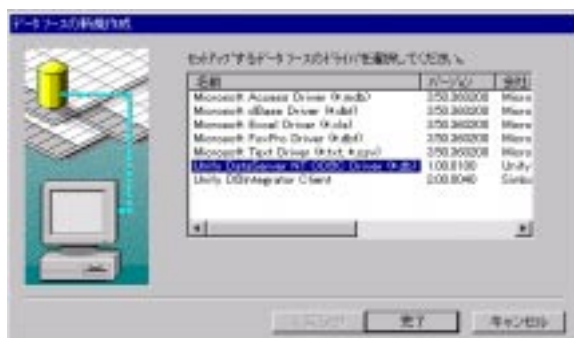


注意 データ・ソースをシステム・データ・ソースとして追加するか、ユーザ・データ・ソースとして追加するか、という追加オプションがあります。システム・データ・ソース (System DSN) は、NT の下で動作する全てのユーザがアクセスできるもので、そのデータ・ソースを生成したアカウントからしかアクセスできないユーザ・データ・ソースとは異なります。

2. データ・ソースの追加

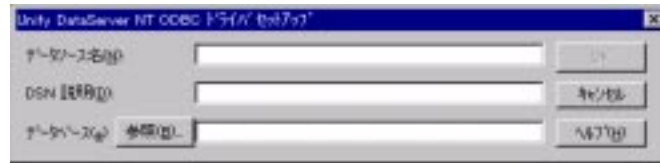
- データ・ソースをシステム・データ・ソースとして追加するには、「ODBC データ・ソース・アドミニストレータ」の画面で「システム DSN」のタブをクリックして下さい。「システム・データ・ソース」のダイアログ・ボックスが現れます。「追加...」ボタンをクリックして下さい。
- データ・ソースをユーザ・データ・ソースとして追加するには、「ODBC データ・ソース・アドミニストレータ」の画面で「ユーザ DSN」のタブを確認してから選択し、「追加...」ボタンをクリックして下さい。ステップ3へ進んで下さい。

以下の画面が現れます。



3. 「インストール済み ODBC ドライバ」のリストから、Unify DataServer NT ODBC Driver を選択して下さい。
4. 「完了」をクリックして下さい。ドライバ「構成」のダイアログ・ボックスが現れます。必要なフィールドを埋めて下さい。ドライバ毎の詳細情報が後ろに表示されています。

5. 適切な ODBC「構成」のダイアログ・ボックスで、Unify DataServer NT ODBC に関するフィールドを埋めて下さい。



データ・ソース名：自分のデータ・ソース名を入力して下さい。データ・ソースには、将来のことも考えて、一意で意味のある名前を選んで下さい。

DNS 説明：このフィールドはオプションです。データ・ソースの説明を入れて下さい。

データベース：このフィールドと、または「参照...」ボタンを使って、接続する Unify DataServer のデータベースのパスを指定して下さい。

第4章：トラブル解決

トラブル解決

この「トラブル解決」は、クライアントに Unify DBIntegrator Client をインストールしたり、サーバに Unify DBIntegrator をインストールする上での問題を解決する手引きとして書かれたものです。Unify DBIntegrator の使用全般に関する問題は、『Unify DBIntegrator の使用』の「第 5 章：トラブル解決」を参照して下さい。

この章の内容で、なお問題を解決できないようでしたら、ユニファイジャパン株式会社に連絡して下さい。詳細は、「はじめに」の「ユニファイジャパン株式会社連絡先」を参照して下さい。ご質問、ご意見をお待ちしております！

全般的なトラブル解決のチェックリスト

容易に究明できる問題点の洗い出しは、このチェックリストを手引きにしてください。

- ✓ Windows NT の構成や Unify DataServer NT の管理を理解していますか？
- ✓ サーバやクライアント・コンピュータは、推奨のシステム必要条件を最低限満たしていますか？詳細は、「はじめに」の「システム必要条件」を参照してください。
- ✓ TCP/IP がクライアントとサーバにインストールされ、稼動していますか？
- ✓ クライアントとサーバは相互に ping ができますか？ping はネットワーク接続の最下層レベルです。他のコンピュータと ping できるなら、そのコンピュータがネットワーク接続されていることを意味します。
- ✓ ホスト名を使ってサーバを ping できますか？これはサーバを名前で参照できることを意味します。できない場合、Domain Name Server に問題があるかも知れません。
- ✓ データベース・ソフトウェアは適切にインストールされていますか？データベース・ベンダのツールを動かし、データベースのインストール状況を確認してください。
- ✓ サポートされているバージョンの Unify DataServer NT(バージョン 6.1 以降)を稼動させていますか？
- ✓ 正しいバージョンの Unify DBIntegrator Client ソフトウェアをインストールしましたか？Unify DBIntegrator Client が自分の OS に合っていることを確かめて下さい。*simclt32.dll* (または *simclt16.dll*) のプロパティで OS 情報をチェックして下さい。

注意

Unify DBIntegrator Client の Windows 3.1/3.11 for Workgroups 版を、Windows NT や Windows 95 のコンピュータにインストールすることができます。但し、これは Windows 3.1/3.11 for Workgroups のデータをアクセスするために設計されたアプリケーションでしか使用できません。

- ✓ 自分のデータベースに接続できるサーバ上で、システム・データ・ソースをセットアップしましたか？これについては、サーバで稼動するアプリケーションから DSN を使い、データベースに直接接続を試してみれば、テストできます。
- ✓ データ・ソースはユーザ・データ・ソースではなく、システム・データ・ソースですか？Unify DBIntegrator のデータ・ソースは、システム・データ・ソースとして構成されなければなりません。システム・データ・ソースは、NT の下で動作する全てのユーザ・アカウントがアクセスできるデータ・ソースであり、そのデータ・ソースを生成したアカウントにしかアクセスできないユーザ・データ・ソースとは異なります。ユーザ・データ・ソースを構成した場合、Unify DBIntegrator からは参照できません。システム・データ・ソースとして、構成し直す必要があります。
- ✓ データ・ソースの参照可能性を変更しましたか？デフォルトの、<全ユーザ>から<全データ・ソース>へのリレーションシップを無効にし、新たにデータ・ソース - ユーザ間のリレーションシップを確立していない場合、ユーザはデータ・ソースを何も見ることはできません。<全ユーザ>あるいは接続トラブルを起こしているユーザから、少なくとも1つのデータ・ソースが見えるかどうかを確かめて下さい。

Unify DataServer NT Server への Unify DBIntegrator のインストール

この節では、Unify DataServer NT Server に Unify DBIntegrator をインストールする際に起こり得る問題について、その解決法を説明します。

以下のメッセージを受け取った場合：

「Unify DBIntegrator もしくは Unify DBIntegrator Service を起動できません。システム管理者に相談して下さい。」

どちらの Unify DBIntegrator プログラムも、NT のサービスとしてインストールされ、起動されます。Unify DBIntegrator のインストール・プログラムは、これらのプログラムを登録し、自動的に起動します。

これらのプログラムが動作していることをチェックするには、

1. NT の「コントロール・パネル」を開いて、「サービス」アイコンをダブル・クリックして下さい。

これにより、「サービス」アプレットを立ち上げ、全ての登録済み NT サービスを見たり、ステータスや構成をコントロールすることが可能になります。
2. Unify DBIntegrator Manager や Unify DBIntegrator Service が登録され、現在動作している（状態が「開始」）ことを確認して下さい。動作していない場合は、「開始」を選択して立ち上げて下さい。

プログラムの1つもしくは両方の立ち上げに失敗するようなら、ポート番号が既に他のプログラムに使われている可能性があります。

ポート番号をチェックするには、

1. 「NT イベント・ログ」で、Unify DBIntegrator Manager もしくは Unify DBIntegrator Service のイベントを探して下さい。使用中のポート番号をチェックして下さい。
2. ポート番号が使われていることを確認したら、他のプログラムを終了させる（または、別のポート番号を使用するように構成する）か、Unify DBIntegrator を構成して、別のポート番号を使用するようにして下さい。

重要

これらの Unify DBIntegrator Server ポート番号は、極力変更しないようにして下さい。可能な限り、Unify DBIntegrator Server ポートでなく、他のサービスのポート番号を変えて下さい。

ポート番号の変更については、『Unify DBIntegrator の使用』の「第 2 章 : Unify DBIntegrator Server の構成」で「ポート番号の変更」を参照して下さい。

以下のメッセージを受け取った場合 :

「セットアップは、NT サービス・コントロール・ディスパッチャと正しく通信できません。システム管理者に相談して下さい。」

Unify DBIntegrator Service が Unify DBIntegrator Manager が、Unify DBIntegrator Server 上で起動もしくは停止できませんでした。NT サーバの「サービス」プログラムを使って、Unify DBIntegrator Manager や Unify DBIntegrator Service の起動もしくは停止を試みて下さい。

Unify DBIntegrator Client のインストール

この節では、Windows 3.1、Windows for Workgroups 3.11、Windows 95、Windows NT 4.0 に Unify DBIntegrator Client をインストールする際に起こり得る問題について、その解決法を説明します。

注意

インストール後の、データ・ソースへのアクセスに関する問題は、『Unify DBIntegrator の使用』の「第 5 章 : トラブル解決」で「Unify DBIntegrator Client インストール後のトラブル解決」を参照して下さい。

以下のメッセージを受け取った場合：

「セットアップを実行するための十分なメモリがありません。すべてのアプリケーションを終了しセットアップを再実行して下さい。それでもセットアップが実行できない場合は、システム管理者に相談して下さい。」

このメッセージを受け取ったら、開いているアプリケーションを全て閉じ、セットアップ・プログラムも閉じて下さい。利用可能なディスク領域をチェックして下さい。Unify DBIntegrator Client をインストールしたいディスク・ドライブで領域を確保するか、別のドライブにインストールしなければならない場合もあります。

以下のメッセージを受け取った場合、

「セットアップはファイルに書き込みできません。ディスクがいっぱいか、書き込み禁止か、壊れているかもしれません。システム管理者に相談して下さい。」

この状況の対策は、

- インストールするディスク・ドライブの空き領域をチェックして下さい。Windows 3.1 や Windows for Workgroups 3.11 では、Unify DBIntegrator Client はディスクの空き領域が最低 880KB 必要です。Windows 95 や Windows NT では、ディスクの空き領域が 1.8MB 必要です。
- ディスク・ドライブ（またはディレクトリ）がライト・プロテクトされているかどうかチェックして下さい。
- それでもセットアップ・プログラムを実行できない場合、ディスクが損傷していないかチェックして下さい。

以下のメッセージを受け取った場合：

「TCP/IP 接続に問題があります。システム管理者に相談して下さい。」

TCP/IP はネットワーク・プロトコルで、Unify DBIntegrator Client から Unify DBIntegrator へリクエストを送信したり、クライアント・ワークステーションに対し、データ・ソースの参照可能性を常に更新するために使用されます。Unify DBIntegrator Client セットアップ・プログラムが、ファイルを自分のディスク・ドライブに正常にコピーした後でこのメッセージを受け取った場合、TCP/IP がコンピュータにインストールされていないか、適切に構成されていない可能性があります。TCP/IP のインストール状況をチェックして下さい。

以下のメッセージを受け取った場合：

「セットアップは Unify DBIntegrator と通信できません。システム管理者に相談して下さい。」

このメッセージが表示された理由として、3つが考えられます。

- Unify DBIntegrator がサーバ上で稼動していません。Unify DBIntegrator Control を使って、Unify DBIntegrator を起動し、再度接続を試みて下さい。
- Unify DBIntegrator Client が間違ったポートと通信しようとしています。デフォルトでは、Unify DBIntegrator Client と Unify DBIntegrator Manager はポート 1583 で相互に通信するよう設定されており、Unify DBIntegrator Client と Unify DBIntegrator Service はポート 1599 で通信するように設定されています。
- クライアントと Unify DBIntegrator Server の間のブロードキャストにフィルタが掛かっています。詳細は、76 ページを参照して下さい。

クライアント上の Unify DBIntegrator Manager と Unify DBIntegrator Service のポート番号をチェックするには、

1. Unify DBIntegrator Client 構成ユーティリティを実行します。

第4章トラブル解決

このユーティリティを動作させるには、クライアントのインストール・ディレクトリに移動して、*udbut16.exe* もしくは *udbut32.exe* を実行します。

2. [高度設定...]を選択して下さい。
3. ポート番号をチェックして下さい。この番号は、サーバ上の Unify DBIntegrator Manager や Unify DBIntegrator Service のポート番号と一致していなければなりません。

ヒント

Unify DBIntegrator Server 上の Unify DBIntegrator Manager や Unify DBIntegrator Service のポート番号をチェックするには、Unify DBIntegrator Control を動作させ、[サーバ]メニューから[設定]を選択して下さい。[ポートの設定]を選択し、値をチェックして下さい。これらの値は、全ての Unify DBIntegrator Client コンピュータがサーバと通信するために使用する値と一致していなければなりません。

4. [OK]ボタンを選択し、クライアントのデータ・ソース・リストを更新して下さい。
5. ダイアログ・ボックスで変更を行ったら、[OK]を選択して下さい。これにより、クライアントの *odbcinst.ini* レジストリ項目、もしくはファイルに新しい設定を書き込みます。

ヒント

クライアント上の Unify DBIntegrator Manager や Unify DBIntegrator Service のポート番号チェックは、以下のファイルでも行えます。

Windows 3.1 および Windows for Workgroups 3.11 クライアント

odbcinst.ini ファイルの[Unify DBIntegrator Client]部を見て下さい。

Windows NT および Windows 95 クライアント

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ ODBC ¥ ODBCINST.INI の下の、Unify DBIntegrator Client レジストリ・キーを見て下さい。

以下のメッセージを受け取った場合：

「Unify DBIntegrator Client が Unify DBIntegrator Manager と通信できません。これは Unify DBIntegrator Manager が、指定された IP アドレス（または URL）あるいは指定されたポートで動作していないためです。システム管理者に相談して下さい。」

この場合、Unify DBIntegrator Manager が指定 IP アドレス（または URL）あるいは指定ポートで動作していないために、Unify DBIntegrator Client が Unify DBIntegrator Manager と通信できなくなっています。

クライアント上の Unify DBIntegrator Manager と Unify DBIntegrator Service のポート番号をチェックするには、

1. Unify DBIntegrator Client 構成ユーティリティを動作させて下さい。
このユーティリティを動作させるには、クライアントのインストール・ディレクトリに移動して、*udbut16.exe* もしくは *udbut32.exe* を実行します。
2. [高度設定...]を選択して下さい。
3. Unify DBIntegrator の IP アドレスとポート番号をチェックして下さい。これらの番号は、サーバ上の Unify DBIntegrator Manager や Unify DBIntegrator Service のポート番号と一致していなければなりません。

ヒント Unify DBIntegrator Server 上の Unify DBIntegrator Manager や Unify DBIntegrator Service のポート番号をチェックするには、Unify DBIntegrator Control を動作させ、[サーバ]メニューから[設定]を選択して下さい。[ポートの設定]を選択し、値をチェックして下さい。これらの値は、全ての Unify DBIntegrator Client コンピュータがサーバと通信するために使用する値と一致していなければなりません。

ヒント Unify DBIntegrator Manager や Unify DBIntegrator Service のポート番号チェックは、以下のファイルでも行えます。

Windows 3.1 および Windows for Workgroups 3.11 クライアント

odbcinst.ini ファイルの [Unify DBIntegrator Client] 部を見て下さい。

Windows NT および Windows 95 クライアント

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ ODBC ¥ ODBCINST.INI の下の、Unify DBIntegrator Client レジストリ・キーを見て下さい。

以下のメッセージを受け取った場合：

「どのデータ・ソースへのアクセスも許可されていません。システム管理者に相談して下さい。」

この場合、Unify DBIntegrator Client は1つ以上の Unify DBIntegrator プログラムとの通信に成功し、データ・ソースを更新しようとしていますが、残念ながら Unify DBIntegrator データ・ソースが何も提供されていません。

理由は、以下の2つのどちらかです。

1. クライアントをインストールしたときに、サーバのデータ・ソースが何も構成されていません。

これを解決するには、Unify DBIntegrator Admin を使って、サーバ上のシステム・データ・ソースを構成して下さい。

クライアント上で、Unify DBIntegrator Client プログラム・グループから[データソースの更新]アイコンを選択し、データ・ソースを更新して下さい。詳細は、「データ・ソースの構成」を参照して下さい。

2. クライアントに対して、サーバ上で構成されたすべてのデータ・ソースへのアクセスが許可されていません。

デフォルトでは、Unify DBIntegrator インストール完了時に構成された全てのシステム・データ・ソースは、全ユーザからの参照が可能になります。つまり、構成されたシステム・データ・ソースがあれば、それは全ユーザから参照することができます。

しかし、<全ユーザ>が<全データ・ソース>を参照できることを取り消し、このクライアントが、すべてのデータ・ソースを参照できないように定義することは可能です。このクライアントが参照可能な、データ・ソース/データ・グループをチェックして下さい。

**付録 A : Unify DataServer NT
ODBC ドライバ仕様**

Unify DataServer NT ODBC ドライバ仕様

Unify のデータ型と関数、ODBC のデータ型と関数についての詳細は、Unify DataServer のリファレンス・マニュアルもしくは『Microsoft ODBC プログラマーズ・リファレンス』バージョン 2.5 を参照して下さい。

Unify DataServer NT ODBC ドライバのデータ型

この表は、Unify DataServer のデータ型と ODBC (SQL) データ型の関係の概要です。

Unify DataServer データ型	ODBC 型
AMOUNT	SQL_NUMERIC(1-9,2)
BINARY	SQL_LONGVARIABLE
BYTE	SQL_VARBINARY(n)
CHARACTER	SQL_VARCHAR(n)
DATE	SQL_DATE
HUGE AMOUNT	SQL_NUMERIC(1-15,2)
HUGE DATE	SQL_DATE
FLOAT	SQL_FLOAT
DOUBLE PRECISION	SQL_DOUBLE
NUMERIC(1-4)	SQL_SMALLINT
NUMERIC(5-9)	SQL_INTEGER
REAL	SQL_REAL

Unify DataServer データ型	ODBC 型
TEXT	SQL_LONGVARCHAR
TIME	SQL_TIME(p)
ROWID	SQL_INTEGER

ODBC API 準拠

Unify DataServer NT ODBC ドライバは、Microsoft ODBC バージョン 2.5 の仕様に準拠しています。Core、Level 1 および大部分の Level 2 API に準拠しています。

以下の関数はサポートされていません。SQLExtended Fetch、SQLParamOptions、SQLSetScrollOptions。

SQL 文法のサポート

Unify DataServer NT ODBC ドライバは、「最小」、「コア」、および大部分の「拡張」SQL 文法に準拠しています。

ODBC データ型や関数の詳細は、『Microsoft ODBC プログラマーズ・リファレンス』バージョン 2.5 を参照して下さい。

索引

あ

アップグレード ライセンス参照 11

アンインストール

Windows NT Server 上の Unify

DBIntegrator 24

Windows 3.1/3.11 for Workgroups 上の

Unify DBIntegrator 53

Windows 95、Windows NT 4.0 上の Unify

DBIntegrator Client 53

インストール

手順の概要 9

Unify DataServer NT Server 上の Unify

DBIntegrator 17-26

ディスクから 47

ネットワークから 54

HTTP1.1 46

SQL 文法サポート Unify DataServer NT ODBC
ドライバを参照

ODBC Administrator アクセス 61

ODBC API コンフォーマンス Unify DataServer NT
ODBC ドライバを参照

か

技術サポート 11

必要な情報 11

クライアントのカスタマイズ Unify DBIntegrator
Client を参照

さ

システム必要条件 6

ドライバ 6

Windows NT Server 6

た

データ・ソース

構成 29,61-63

システム定義 61

ユーザ定義 61

データ型定義 Unify DataServer NT
ODBC ドライバを参照

データ・ソースの構成 custom.ini

ファイルのデータ・ソースを参照 41

デフォルト設定

Unify DBIntegrator Client

Unify DBIntegrator Client を参照

Unify DBIntegrator

Unify DBIntegrator を参照

ドキュメント

ユーザ向け 5

ドライバ Windows NT Server へのインストール 23
必要条件 6-7

トラブル解決

Windows NT への Unify DBIntegrator

インストール 70-71

Unify DBIntegrator Client

インストール 71-77

トンネリング、ファイアウォール 46

は

ファイアウォール 46

や

Unify DataServer NT ODBC ドライバの構成

データ・ソース名フィールド 63

データベース・フィールド 63

説明フィールド 63

データ型 81

ODBC API コンフォーマンス 82

仕様 81-82

SQL 文法サポート 82

Unify DBIntegrator

Windows NT Server のデフォルト設定 17
Windows NT Server 上のファイル 31
インストール Unify DBIntegrator Client
のインストールを参照
custom.ini ファイル 41
カスタマイズ 41
デフォルト設定 41
Windows 3.1/3.11 for Workgroups 上のファ
イル 55
Windows NT、Windows 95 上のファイル
56

ら

ライセンスのアップグレード 11